

自校の実態に応じたキャリア教育を進めていきましょう！

Q1 うちの子どもたちの実態ってどうなんだろう？

A1 「しまねの子どもに育てたい力と評価項目」（以下、評価項目表）で、実態を把握してみましょう。

Q2 子どものアンケートから「人の役に立っていると感じられない子」が多いようだけど何が原因なのかなあ？

A2 評価項目表にある教職員視点のアンケートを行い、子どもの結果と比較することで、課題が明確になることもありますよ。

Q 児童生徒一人一人に学級や学校での存在意義を感じ取らせていますか？

教職員 しっかりと取り組んでいますよ！

意識のすれ！

Q 人の役に立っていると感じることがありますか？

子ども あまり感じたことがないなあ…。

※「意識のすれ=課題」とは限りません。しかし、「やり方は子どもの実態に合っているかな？」という見直しや修正のきっかけになります。

Q3 意識が低い項目をキャリア教育目標にするということ？

A3 学校教育目標、評価項目表の「発達の段階の重点」、教職員の願い等と、アンケート結果とを照らし合わせてみましょう。育てたい力について、自校の実態はどうか？という視点で分析することで、自校の目標を焦点化していくことができます。

＜計画作成のポイント＞

例えば、「評価項目」の子どもを卒業時の姿として、系統性を考えながらそれぞれの発達の段階において目指す姿を設定します。そして、そのねらい達成のための手立てとして、今ある活動をキャリア教育の視点で捉え直します。（実践例1・2参照）それらを基に全体計画や年間指導計画を作成し、意図的に指導することが大切です。（実践例3・4・5・参考例参照）

自校においてそれぞれの発達の段階で目指す姿は共通理解されていますか？

先への見通し

県として目指す姿もイメージしましょう。

卒業するときにはこんな姿を期待したいですね。

※このような共通理解ができる場が必要ですね

年間指導計画の作成

実践例1 【今ある教育活動をキャリア教育の視点から捉え直す（将来を見据えて、今、子どもに育てておきたい力を明確にして取り組む）：松江市立東東小学校】

～第4学年総合的な学習の時間「こだいじおどり」～
○単元名 こだいじおどり
～地域に伝わる伝統文化を通して人々の願いにふれよう～
○目標
・こだいじおどり集会へ向けての取組を通して、地域に伝わる伝統文化の大切さと、それに関わる人たちの願いに気づくことができる。
・友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚することができる。

キャリア教育の視点から取組を見直し、集会の成功だけでなく、伝統文化の大切さとそれに関わる人たちの願いを考えることで、地域の良さに気づき、一人一人が郷土を大切にしたい気持ちが高まることにつながっています。キャリア教育の目標を意識した取組です。

＜さまざまな人の生き方について考える力＞



～保存会の方との踊りの練習～



～こだいじおどり集会～

参考例 【各教科等における取組の中で、キャリア教育として「自己有用感」を育てる】
例えば、各教科等におけるねらい達成のための手立てが、キャリア教育の目標達成のための手立てとして有効なこともあります。

～各教科等におけるねらい達成のための手立て～
・主体的に活動したくなる課題設定
・課題解決に向けて全員が協働し認め合えるような活動設定や声かけ



自分の考えもこの課題解決に役立ったかな。よし、もっといいアイデアを考えるぞ！

自己有用感

＜自校のキャリア教育で目指す姿＞
人の役に立っていると感じている子ども

＜ポイント＞指導者がキャリア教育の視点をもつことで「〇〇さんのおかげで△△できたね。」など、目指す姿を意識して、声かけも意図的に行うことができますね。
上記の例の他にも、異校種交流を行い、学びを後輩に伝えることで自己有用感を高める等、さまざまな取組が考えられます。

＜ポイント＞

教職員の願いが込められた実践が、これからの実践につなげられるように評価を改善に生かし、RPDCAサイクルを機能させましょう。

実践例5【幼児期に「育てたい力」を明確にもって取り組んだ

育てる4つの力

- ①かかわる力：ひと、もの、ことに自分からかかわり、経験を多様にし
- ②つながる力：自分から友達や教師につながろうとし、ともに生活してとする。
- ③知る力：必要なことを自分から知ろうとし、思考を深める。
- ④生かす力：知り得たことを自分から生かそうとし、経験を広げる。

しまねの子どもに育てたい力		しまねの子どもに育てたい力と評価項目	
育てたい力の要素	評価項目（子ども）	育てたい力の要素	評価項目（子ども）
触れる力（幼） 身の周りの「ひと・もの・こと」に対して、好奇心や親しみをもって、自ら体を動かす力	つながろうとする意欲	触れる力（幼） 身の周りの「ひと・もの・こと」に対して、好奇心や親しみをもって、自ら体を動かす力	みんなと仲良くしようとしているか。 （ひ・高・難）に対して公平に、同じような態度でかかわろうとしているか。） 相手の立場を考えた、その人の考えや気持ちを受け止めようとしているか。 頑張っている人に対して、応援しようとする気持ちをもちますか。 困っている人に声をかけたり、助けようとしていたりしていますか。
かかわる力（小） 「ひと・もの・こと」とふれ合い、自分を表現したり、周りを思いやったりする体験をおして、進んで周囲とかかわり、ふるまいを身に付けていく力	コミュニケーション・スキル	かかわる力（小） 「ひと・もの・こと」とふれ合い、自分を表現したり、周りを思いやったりする体験をおして、進んで周囲とかかわり、ふるまいを身に付けていく力	相手や場所に応じたあいさつや言葉づかいをしようとしていますか。 相手とわかりやすいように意識しながら、自分の考えや気持ちを伝えたいしていますか。 今住んでいる地域の行事に積極的に参加していますか。 今住んでいる地域の自然や文化などのよさについて、感じたことがありますか。 （ひ・高：今住んでいる地域の自然や文化などのよさについて、身近に話すことができますか。）
やってみる力（幼） 自分が見たいことや生活に必要なことに、自分なりのやり方で試行錯誤しながら取り組む力	個性を理解する力	やってみる力（幼） 自分が見たいことや生活に必要なことに、自分なりのやり方で試行錯誤しながら取り組む力	自分の長所や短所が言えますか。 あまりやる気が起きないときでも、自分がやらなければならないことに取り組もうとしていますか。 （幼：自分の「できること」や「したいこと」、「必要なこと」に、一歩取り組んでいますか。）
見つめる力（中） 自分を客観的・肯定的に見つめ、自分の良さや課題を見出し、自分自身をコントロールしながらよりよい生き方を目指す力	自己有用感	見つめる力（中） 自分を客観的・肯定的に見つめ、自分の良さや課題を見出し、自分自身をコントロールしながらよりよい生き方を目指す力	人の役に立っていると感じることがありますか。
自ら学ぶほうとする力（小） 興味・関心のあることや身近な生活のなかから、課題や調べたいことを進んで見つけ、日常生活や学習にめあてをもって取り組む力	学ぶ意欲	自ら学ぶほうとする力（小） 興味・関心のあることや身近な生活のなかから、課題や調べたいことを進んで見つけ、日常生活や学習にめあてをもって取り組む力	日常生活や学習のめあて（目標）をもっていますか。 前向きに行動する力 日常生活や学習のめあて（目標）に向かって努力していますか。 課題を解決しようとする力 問題を解決するために、自分から進んで取り組もうとしていますか。 課題を解決するために、いろいろなやり方を考えたり、試したりしようとする力 問題を解決するために、いろいろなやり方を考えたり、試したりしようとする力。
やり抜く力（中） 目標の実現や課題解決に向けて自分から進んで取り組み、粘り強く学び行動し続ける力	見極める力	やり抜く力（中） 目標の実現や課題解決に向けて自分から進んで取り組み、粘り強く学び行動し続ける力	わからないことや知りたいことがあるとき、進んで調べたり、誰かにしたりしていますか。 まわりの人の考えを参考にし、自分の考えに生かそうとしていますか。
創り出す力（高） 自らの経験や様々な情報を統合的に活用し、新たな価値を生み出し、仕組みを創り出したる力	夢・目標	創り出す力（高） 自らの経験や様々な情報を統合的に活用し、新たな価値を生み出し、仕組みを創り出したる力	将来の夢や目標がありますか。 将来やってみたい仕事がありますか。
見通す力（中） 多くの情報や自分の経験を整理しながら、学ぶことや働くことについて具体的な目標を立て、その実現のための方法について考える力	計画・実行	見通す力（中） 多くの情報や自分の経験を整理しながら、学ぶことや働くことについて具体的な目標を立て、その実現のための方法について考える力	何かをするときには、先を見通して計画的に取り組めますか。
切り拓く力（高） 実社会での生活に向けて未来の自分の生き方をデザインし、目標の実現に向けて挑戦し続ける力	挑戦	切り拓く力（高） 実社会での生活に向けて未来の自分の生き方をデザインし、目標の実現に向けて挑戦し続ける力	授業の目標に向かって、普段の生活や勉強の仕方を工夫していますか。 貢献 友達と物事を決めるときに、よりよくするために自分の意見を伝えようとしていますか。 将来、世の中やふるさとのために役立ちたいと思いますか。

実践例2【今ある教育活動をキャリア教育の視点から捉え直す～キャリア教育の視点で捉えた算数の授業～：浜田市立上府小学校】

6年生の算数「形の持ちょうを調べよう」で、ペアやグループ・全体の中で考えを出し合い、自分の考えを深めたり、変えたりすることで、人間関係形成・社会形成能力を高めることをねらいとしました。発問に対して、児童の反応を観察し、それに応じた課題を提示するとともに、どの子も意欲的に授業に参加できるようにカードを用意し、グループごとにホワイトボードを準備しました。また、カードを折ったり切ったりすることで視覚的に考えさせました。その結果、グループ内で意見が活発に交わされ、全体へと広げ、考えを深めることができました。



今、しまねのキャリア教育は・・・？

平成25年度の「キャリア教育に関する意識調査」（島根県教育センター浜田教育センター）からは、次のような実態が見えてきました。自校の実態と照らし合わせながら見てみましょう。

※数値は「当てはまる」と回答した割合

児童生徒の実態

教職員の指導に関すること

人とかかわりに関すること

他者との関係を築こうとする意欲や、場に応じて話そうとする意識は高い傾向にあります。一方で、相手に自分の気持ちをしっかりと伝えたり、行動に移したりしようとする力が弱いことがうかがえます。

他者との関係を築かせるための教職員の支援は意識的に行われています。児童生徒の意欲も高まっているため、自分の思いを言葉にしたり行動に移したりできるような力を育てる指導・支援の工夫改善が望まれます。

<人とかかわりについて、小学校の児童と教職員の意識は次のような結果でした。>

児童・「みんなと仲良くしようとしている」72.5%

「相手がわかりやすいように意識しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしている」36.0%

教職員・「困っている友達を助けたり頑張っている人を応援しようとする気持ちを育てることを意識して指導している」63.8%

「相手が理解しやすいように、自分の考えや気持ちを伝えることを意識して指導している」43.7%

ふるさとのよさに関すること

ふるさとの「ひと・もの・こと」に触れる機会が多い環境にありますが、ふるさとのよさを感じ取り、他者に伝えられるまでには育っていない傾向があります。

ふるさとの「ひと・もの・こと」に触れたり体験したりする学習をより深め、主体的な体験から何を感じ取らせたのかを明確にした指導・支援の工夫改善が望まれます。

<今住んでいる地域について、高等学校の生徒の意識は次のような結果でした。>

生徒・「今住んでいる地域の行事に積極的に参加している」8.6%

「今住んでいる地域の自然や文化などのよさについて身近な人に話すことができる」9.8%

自分自身に関すること

「人のために役に立っていると感じる」と答えた児童生徒が少なく、自己有用感が低い傾向があります。

「将来、世の中やふるさとの役に立ちたい」という意識を育てる指導とも関連させながら、児童生徒の自己有用感を高める指導・支援の工夫改善が望まれます。

「将来に対する夢や目標を抱いている」と答える児童生徒は少なくありません。その一方で、具体的に実現しようとする力（生活や学習の目標設定、計画と実行、柔軟に取り組んだりねばり強く取り組んだりすることなど）が弱い傾向にあります。

児童生徒が抱いている夢や目標の実現を図るための指導・支援の工夫改善が必要です。特に、課題に対して柔軟に、ねばり強く取り組む姿勢を、発達に応じて段階的に育てることが望まれます。

<夢や目標に対する全校種の児童生徒の意識は次のような結果でした。>

「将来の夢や目標がありますか」小学校70.1% 中学校49.3% 高等学校37.4%

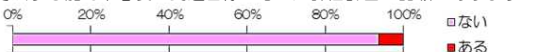
「将来やってみたい仕事がありますか」小学校70.9% 中学校52.9% 高等学校42.5%

キャリア教育の計画に関すること

全体計画は約9割の学校が作成していますが、教科等との関連を明確にした年間指導計画や、評価を配慮した計画を作成している学校はきわめて少ないことが分かりました。

計画、実施した取組を評価し、改善につなげるサイクルを確立すること、特に、評価については共通理解が大切です。

<育成する能力や態度の到達目標に応じた評価計画の記載がありますか？>



実践例 【めざす子ども像と重点目標、重点内容を掲げた取組：雲南市立阿用小学校】

めざす子ども像と重点目標

- ①「いのちを大切に子ども」・・・「生きること」の尊さを実感させることを通して他者の個性を尊重し、自己理解を深め、夢や希望をもって将来の生き方を考えていこうとする態度を育てる。
- ②「社会に貢献できる子ども」・・・自然体験や社会体験を通して社会の一員としての自己の存在を理解し、職業や学校での学習に積極的にかかわろうとする意欲・態度を育てる。
- ③「ふるさとに誇りをもつ子ども」・・・雲南の自然に触れたり、歴史や文化を学んだりすることを通して、ふるさとに誇りを持ち、人のために、社会のために役立つ生き方を考えようとする態度を育てる。
- ④「健康で自立した子ども」・・・自分の生活を自己管理することの大切さや「食」「運動」に関する理解を深め、実践することを通して、自立して生きていくことができる基礎的な力を養う。

目指す子ども像は、最終学年までを見通して、抽象的な表現ではなく、子どもの姿を思い浮かべて設定すると良いですね。そして、目指す子ども像と指導の重点を明確にし、実践を進めることが大切です。

「めざす子ども像と重点目標」の達成に向けて、各学年で取り組みます。

③ふるさとに誇りをもつ子ども

実践

【2年町たんけん】
「叶坂古墳見学」



【2年町たんけん】
「塩釜神社 大岩見学」



【3年ヤマタノオロチ伝説】



【3・4年雲南市めぐり】



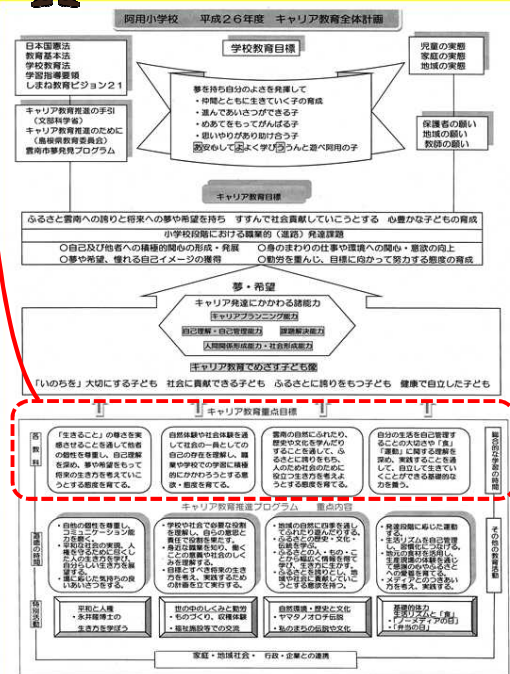
【1・2年巻きつくり】



【4年地域に貢献した人々】



「キャリア教育」を進めるに当たって、今一度、国や県などから出ている資料を参考にしましょう。



<キャリア教育を進めるに当たって参考となる資料>

- 小・中・高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）
- キャリア教育を「デザイン」するー小・中・高等学校における年間指導計画作成のためにー（国立教育政策研究所）

この他に、文部科学省ウェブサイト「キャリア教育（進路指導）」のページから各種資料をダウンロードすることもできます。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

【実践：大田市立大田幼稚園】

地域の実態や、発達段階に応じて「育てたい力」を明確にして取り組むことが大切です。また、園で育てる力が、小学校で育てる力とつながっているという意識をもって実践されている点もいいですね。



「つながる力」
「こうやってごらん、お魚が釣れるよ」

【幼（就学前）・小・中・高】（例）

評価項目（教職員）	発達段階の重点 （育てたい力の課題と期待）			意識調査結果				
	高意識1～5位			中意識		低意識1～5位		
	幼	小	高	幼	小	中	高	
誰に対しても分け隔てなく、同じような態度で関わろうとする気持ちを育てていますか。	◎							
様々な立場や考えの相手に対して、その意見を聞き、理解させるようにしていますか。	◎							
他者に関心をもたせるとともに、頑張っている人を応援しようとする気持ちを育てていますか。	◎	◎						
他者に関心をもたせるとともに、困っている友達に対して声を掛けたり、助けたりしようとする気持ちを育てていますか。	◎	◎						
相手や場所に応じたあいさつや言葉遣いができるようにさせていますか。	◎	◎						
相手が理解しやすいように、自分の考えや気持ちを整理して伝えさせていますか。		○	○					
地域の人と積極的にかかわっていますか。	◎							
地域の自然や文化などについて、そのよさを感じ取らせていますか。	◎	○	○					
自分の興味や関心、長所や短所などについて把握し、自分らしさを発揮できるようにさせていますか。		◎						
喜怒哀楽の感情に流されず、自分の行動を適切に律して取り組ませていますか。	◎	◎						
（幼）生活に必要なことや興味・関心のあることに、自分から取り組ませていますか。		○	○					
学級や学校での存在意義を児童生徒一人一人に感じ取らせていますか。		○	◎					
日常生活や学習についての目標をもたせさせる機会を設定し、意欲的に取り組もうとする姿勢を育てていますか。		◎						
身近な生活の中から課題を進んで見つけ、その解決に向けて目標をもって取り組ませていますか。		◎	◎					
自分から進んで問題解決させていますか。		◎	◎					
活動や学習を進める際、粘り強く取り組ませていますか。		◎						
問題を解決するために、新たに考えたり、つくり出したり、拭いたりさせていますか。		◎	◎					
質問 分からないことや知りたいことについて、今までの経験から考えたり、様々な情報を活用させたりしていますか。		◎						
か。周りの意見や情報を参考にさせながら、自分の考えをまとめたり、深めさせたりしていますか。		◎	◎					
自分の将来の夢や目標について考えたり、将来を描かせたりする機会を設定していますか。		○	◎					
自分の個性や適性を踏まえ、将来やってみたい仕事を考える機会を設定していますか。		○	◎					
自分の将来についての具体的な目標をもたせ、現実を考えながらその実現のための方法を考えさせていますか。		◎	◎					
自分の将来の目標の実現に向けて具体的に行動させたり、その方法を工夫・改善させたりしていますか。		◎	◎					
学級で物事を決めるとき、よりよくするために自分の意見を伝えさせていますか。		◎	◎					
ふるさと意識の向上や、世の中やるさとへ貢献しようとする意欲を高めていますか。		◎						



キャリア教育として、新しいことを何かやるのではなく、今やっていることをキャリア教育の視点で捉え、自校のキャリア教育の達成につなげていくところがよいですね。やみくもに頑張る「キャリア教育」ではなく、キャリア教育の目標達成に向けて、自校の教育活動をキャリア教育の視点から捉え直してみましょ。

＜ポイント＞「しまねの子どもに育てたい力や発達段階の重点をすべて育てなくてはならない！」ではありません。各学校の実態に応じて、また、必要に応じて、自校の教育活動をキャリア教育の見通ししながら育ていくことが重要です。

実践例4【育てたい力を明確にもって取り組むキャリア教育：隠岐島前高等学校】

- 《育てたい力》
 ①多文化協働力 ②課題発見・解決力 ③キャリア形成意識
 ※ 学校の教育活動全体を通して育てる

夢探求Ⅰ（総合的な学習の時間）の取組

目 標
 ○自己実現と地域・社会貢献を果たす夢を描き、進路の方向性を定める。
 ○自分や地域・社会について学び進む過程を通して、主体的に考え、協働的に学び、自律的に行動する基礎的な態度と能力を身に付ける。

単元・テーマ「仕事を考える」

取組概要

地域の仕事を知り、地域の方が仕事上の課題にどのように取り組んでいるか、今後の可能性を学ぶ。3週間にわたり、実際の働き方などを学ぶことでビジネスプランのヒントにする。

地域課題を解決するようなビジネスプラン発表。町の産業関係者の方などを招く。良いものは実際に実行へ。

一連の取組で（①多文化協働力②課題発見・解決力）を育成する。

主な取組

- ・仕事を、働くことを考える
- ・多様な業界・業種・職種を知る
- ・地域社会と仕事の関係
- ・地域資源を活かした仕事
- ・地域の仕事を知るⅠ・Ⅱ・Ⅲ
- ・生徒の考えた地域の課題を解決するようなビジネス発表会
- ・チーム活動の振り返り
- ・社会や仕事について気になることを話し合う
- ・社会力自己チェック

キャリア教育で育てたい力として、
 ①多文化協働力、②課題発見・解決力、③キャリア形成意識を掲げた取組です。「夢探求Ⅰ（総合的な学習の時間）」の学習では、各学期の主な重点として、1学期は多文化協働力（人間関係形成力）、2学期は地域起業家精神（職業観労働観）、3学期は夢（自己理解・将来設計能力）というように重点化を図り、地域と連携しながら育てたい力を明確にして取り組んでいる点が参考になりますね。

実践例3【特別支援学校における生徒の将来をイメージした授業づくり：江津清和養護学校】

「自分らしく生きようとする力を育てる指導の工夫」（研究主題）
 江津清和養護学校 中学部Ⅰ類型（医療的ケアを必要とする生徒）
 ～人との関わりを広げる授業づくり～

【付けたい力】
 ・人との関わりを広げ、様々な経験をする。
 ・人との関わりの中で自分の気持ちを表現する。
 ・様々な物（素材、お話、音楽等）に触れて、その刺激を受け止める。

【キャリア教育学習プログラム】
 【人間関係形成・社会形成能力】
 ○頼しい人に自分の気持ちを表現する。
 【自己理解・自己管理能力】
 ○楽しいこと、好きなことを見つける。
 【課題対応能力】
 ○様々な刺激を受け止める。
 ○環境の変化を受け止める。

※付けたい力とキャリア教育学習プログラムとの関連を図った図。太字は最重要課題。

活動名「名刺を作ってあいさつしよう（自立活動）」

＜ねらい＞
 ・名刺づくりを通して、紙テープ等の素材に触れたり、名刺に色づいていく様子を見たりして様々な感覚を味わう。
 【4環境の把握（1）自立活動のねらいから】
 ・名刺を介して、人と関わったり、関わりを受け入れたりする。
 【3人間関係の形成（1）自立活動のねらいから】
 【キャリア教育学習プログラムとの関連】

＜内容＞
 ハイタル（健康状態の子チェック）→あいさつ→名刺づくり（メッセージビデオ、名刺の作成）

卒業後の社会参加のイメージをもちながら自分の気持ちを出し表す活動を通して信頼関係をつくり、広げることができるようになることを目指した取組ですね。



＜目指す姿＞

＜ポイント＞ひとつの活動を終えて、評価しました。改善は次年度でしょうか？ そんなのもったいないですよ。この活動で捉えた課題や改善点は、同じねらいの次の活動にぜひ生かしましょう。

＜ポイント＞実施して終わりではなく、子どもがどう成長したかを見ることが大切ですね。また、それができる目標設定や活動になっているでしょうか？ 目指す姿はできるだけ具体的な姿を想定しておきましょう。

A5 評価を踏まえ、「子どもの成長を促した要因は何か？」「子どもの成長に結び付かなかった理由は何か？」という視点で実践を振り返り、見直しましょう。また、子どもの評価だけでなく、次のような視点で見直すことも大切です。

- 活動内容は適当だったか？
- 計画は適当だったか？
- 評価方法は適当だったか？
- 組織のあり方は適当だったか？
- 連携のあり方は適当だったか？ 等

Q5 評価を改善につなげるにはどうすればよいのだろうか？

＜ポイント＞評価の方法としては、アンケートで使った評価項目表を活用する他、行動観察記録や感想、ポートフォリオ等の活用も考えられますね。

A4 子どもの姿から、育てたい力が育ったかどうかを評価します。（計画どおり実施できたかどうかを評価するものではありません。）

Q4 何を評価するのだろうか？